

最近の経済動向

令和3年8月号

(北海道の景気動向～令和3年6月の経済指標を中心として)

一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している

■生産動向

P1 生産活動(鉱工業生産指数)
持ち直しの動きがみられる

■需要動向(消費・投資)

P2 個人消費(百貨店・スーパー・コンビニエンスストア・専門量販店販売額、インターネットを利用した一世帯支出額、新車登録台数)
一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

P6 住宅建設(新設住宅着工戸数)
持ち直しの兆しがみられる

P7 公共工事(公共工事請負金額)
おおむね横ばいとなっている

P8 観光(来道者数、来道外国人数)
弱い動きが続いている

P10 輸出入(輸出額、輸入額)
輸出額、輸入額とも前年を上回った

■企業倒産

P11 企業倒産(倒産件数、負債総額)
倒産件数は減少し、負担総額は増加した

■雇用動向

P13 求人・求職(月間有効求人数・求職者数、月間有効求人倍率、完全失業率)
弱い動きが続いている

■物価動向

P15 物価(消費者物価指数)
消費者物価指数は前年を下回った

■企業の業況感

P16 企業経営者意識調査
前期から上昇している

P17 企業のみなさまから伺いました

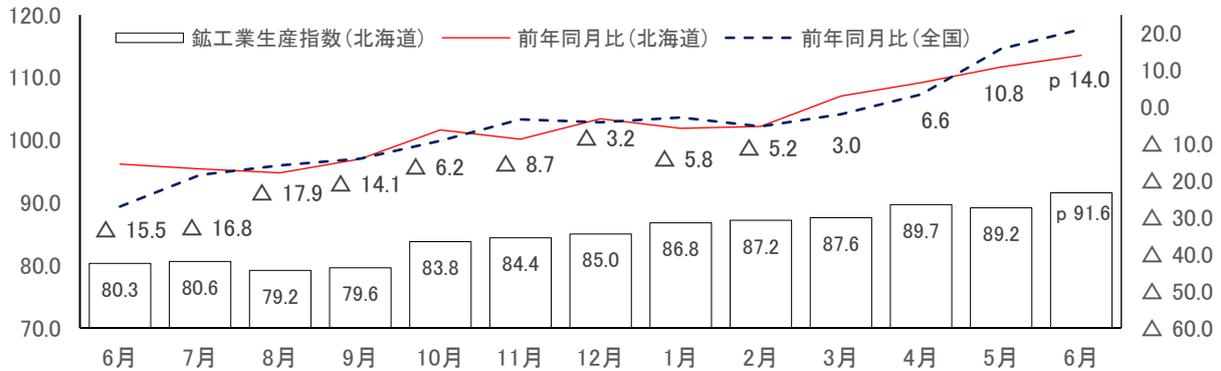
生産活動～持ち直しの動きがみられる

鉱工業生産指数（6月）

鉱工業生産指数(季節調整済)は、91.6で前月比2.7%(2か月ぶりに上昇)であり、原指数による前年同月比は、14.0%(4か月連続で上昇)となった。業種別にみると、輸送機械工業など9業種が前月比上昇、パルプ・紙・紙加工品工業など6業種が前月比低下となった。

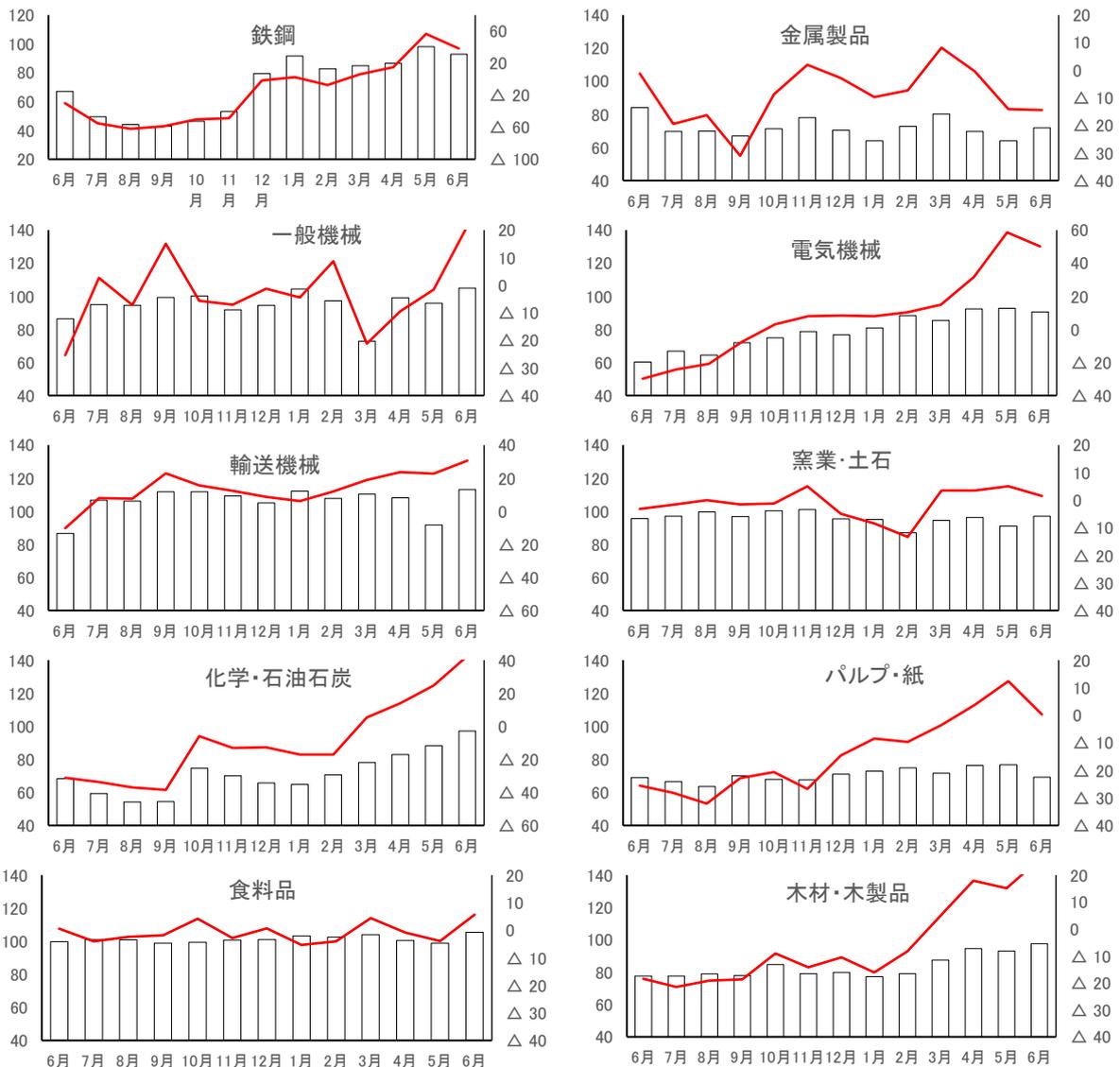
(季節調整済指数:平成27年=100)

(原指数前年同月比:%)



*「p」は速報値

■主な業種の季節調整済指数(右軸:原指数前年同月比%)

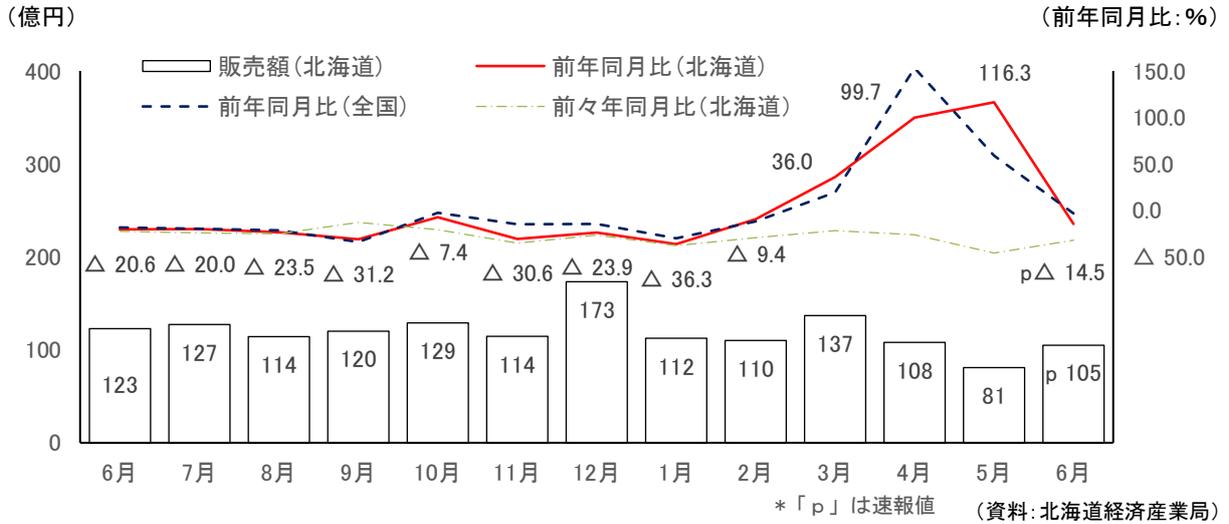


(資料:北海道経済産業局)

■個人消費～一部が低い水準にとどまるものの、持ち直しの動きが続いている

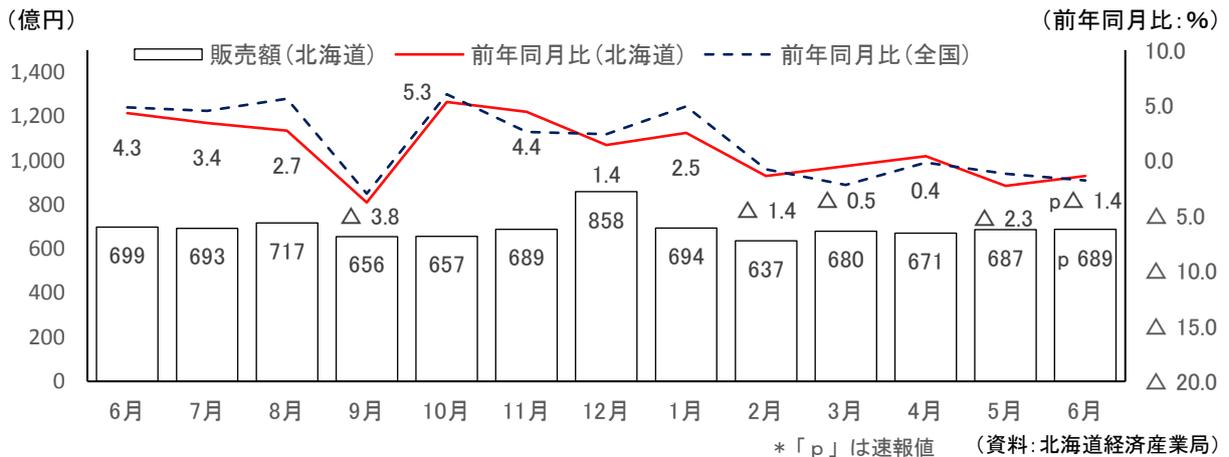
百貨店販売額（6月）

百貨店販売額は、105 億円で前年同月比 14.5%の減少となり、4 か月ぶりに前年を下回った。



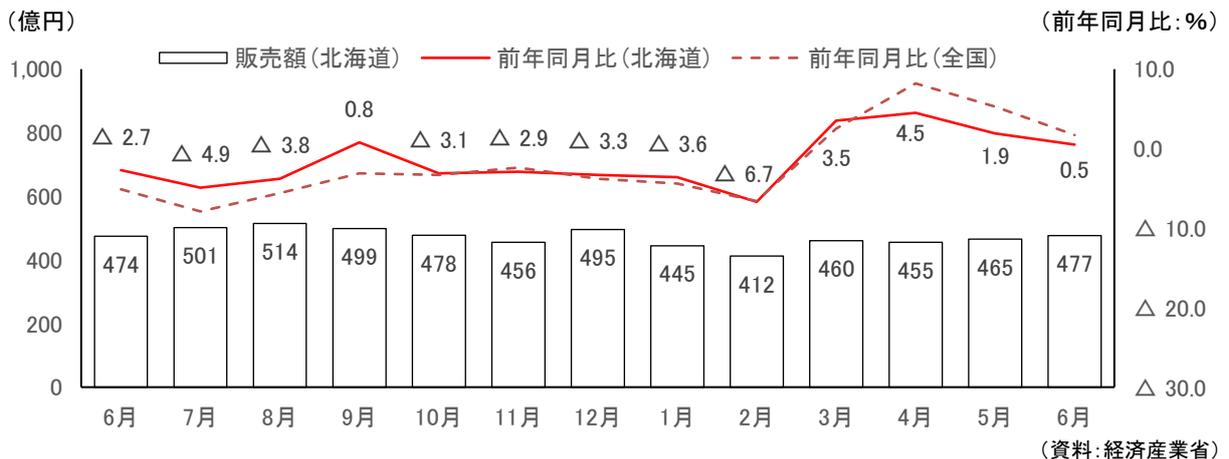
スーパー販売額（6月）

スーパー販売額は、689 億円で前年同月比 1.4%の減少となり、2 か月連続で前年を下回った。



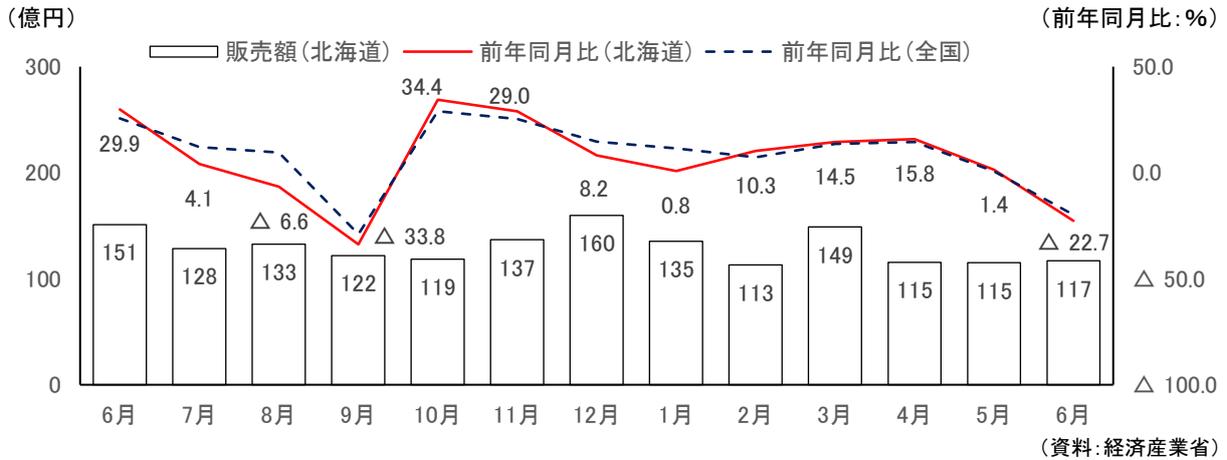
コンビニエンスストア販売額（6月）

コンビニエンスストア販売額は、477 億円で前年同月比 0.5%の増加となり、4 か月連続で前年を上回った。



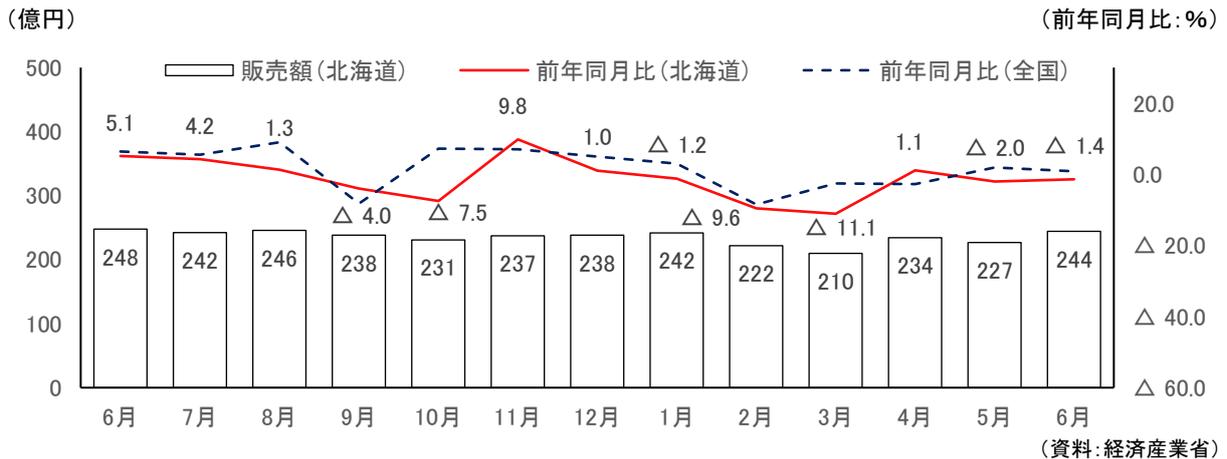
家電大型専門店販売額（6月）

家電大型専門店販売額は、117億円で前年同月比22.7%の減少となり9か月ぶりに前年を下回った。



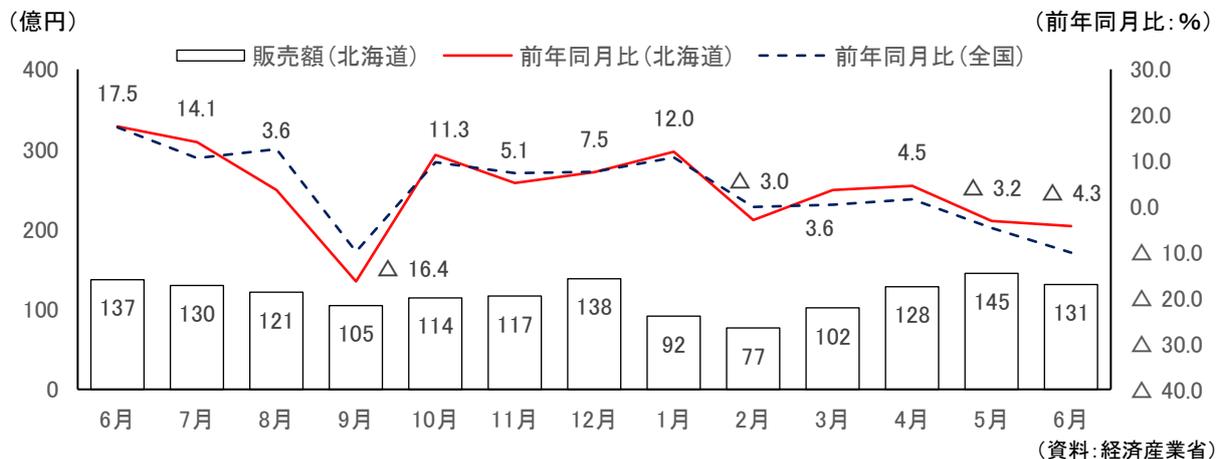
ドラッグストア販売額（6月）

ドラッグストア販売額は、244億円で前年同月比1.4%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



ホームセンター販売額（6月）

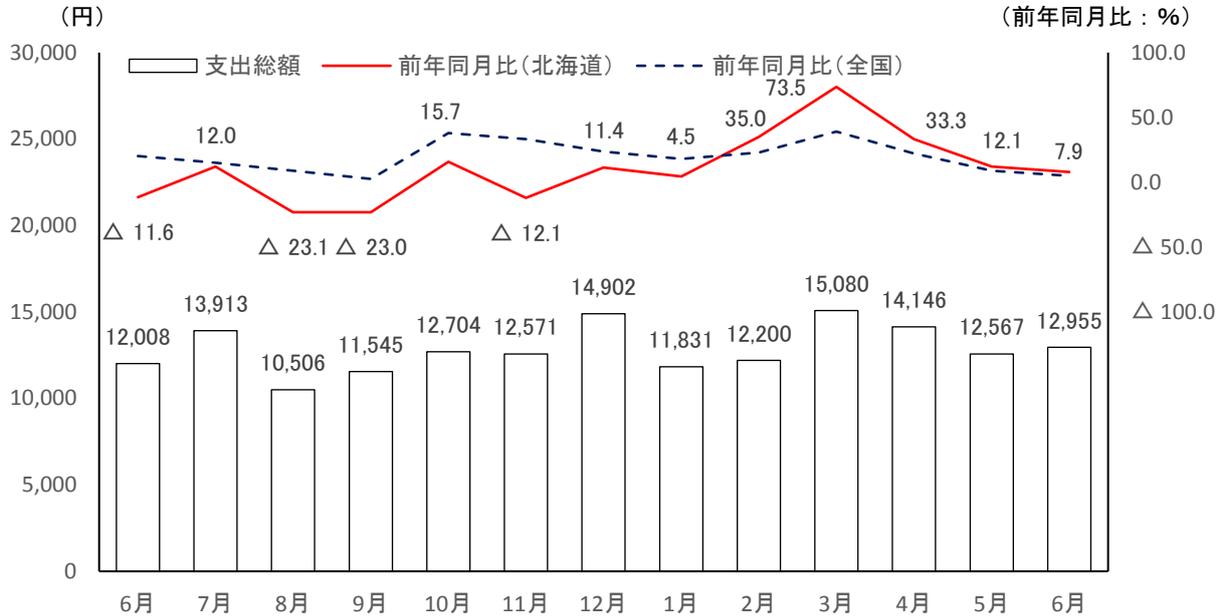
ホームセンター販売額は、131億円で前年同月比4.3%の減少となり、2か月連続で前年を下回った。



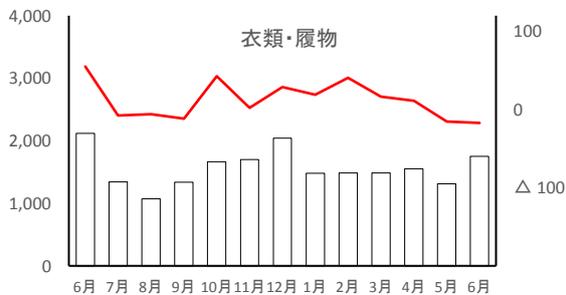
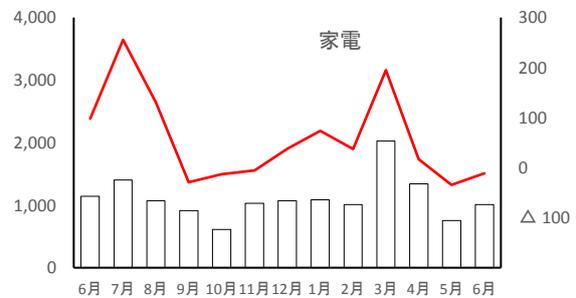
インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出（6月）

インターネットを利用した1世帯当たり1か月間の支出総額は12,955円で、前年同月比7.9%の増加となり、7か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、食料は2,619円で前年同月比47.6%の増加、家電は1,008円で同11.6%の減少、衣類・履物は1,752円で同17.2%の減少、旅行関係費が592円で同29.2%の減少となった。



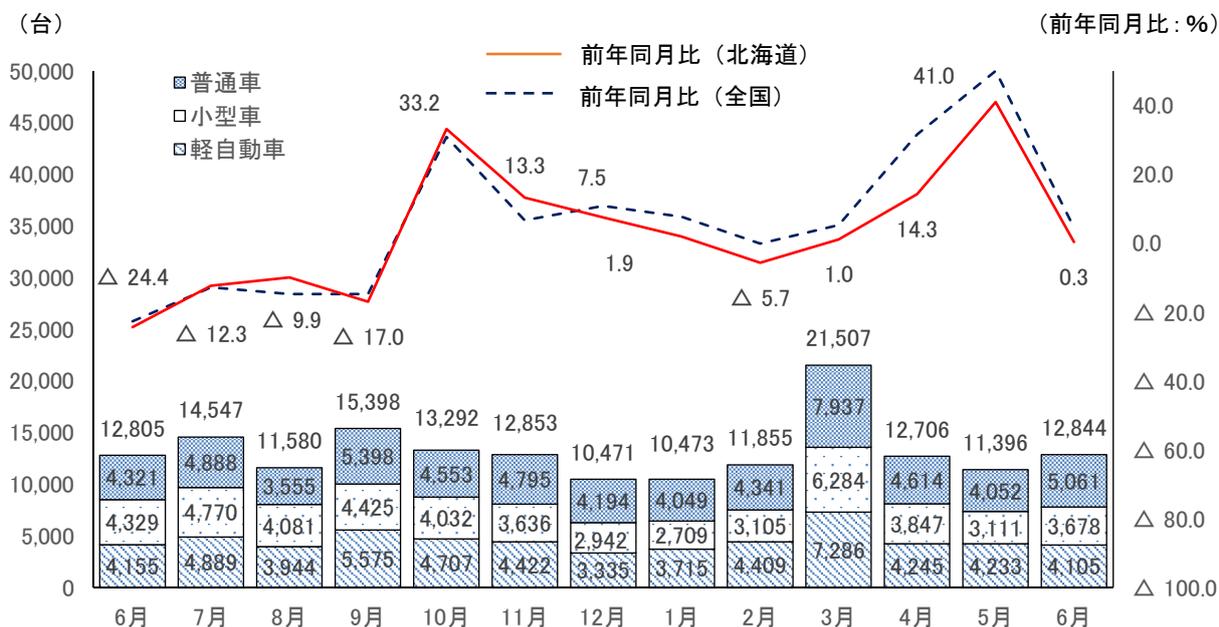
■品目別支出額（右軸：前年同月比%）



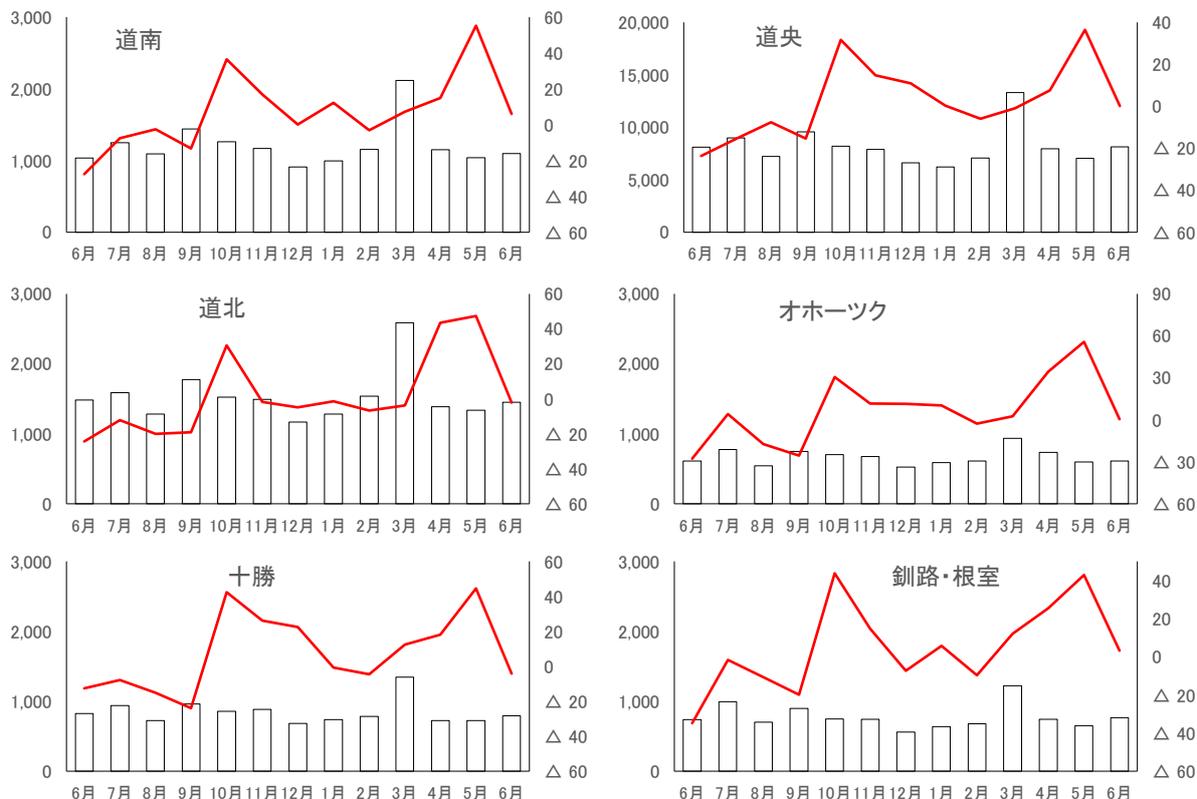
(資料: 総務省)

新車登録台数（6月）

新車登録台数は、12,844 台で前年同月比 0.3%の増加となり、4 か月連続で前年を上回った。
 車種別にみると、普通車は、5,061 台で前年同月比 17.1%の増加、小型車は、3,678 台で同 15.0%の減少、軽自動車は、4,105 台で同 1.2%の減少となった。



■各圏域の新車登録台数（右軸：前年同月比%）

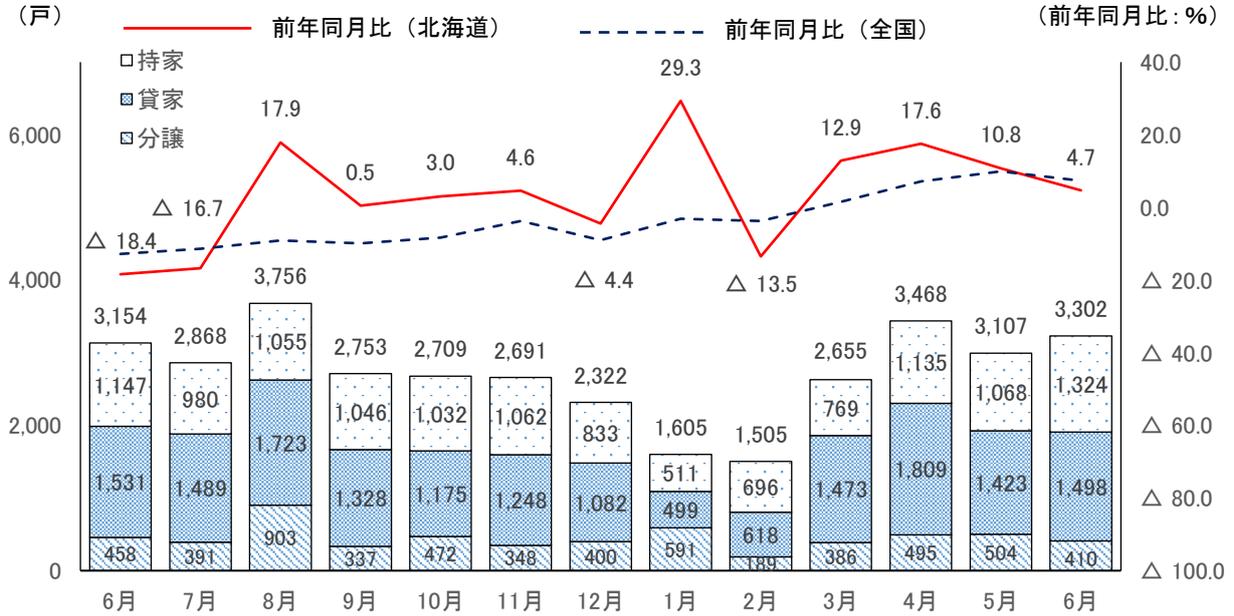


(資料: (一社)日本自動車販売協会連合会、(一社)全国軽自動車協会連合会)

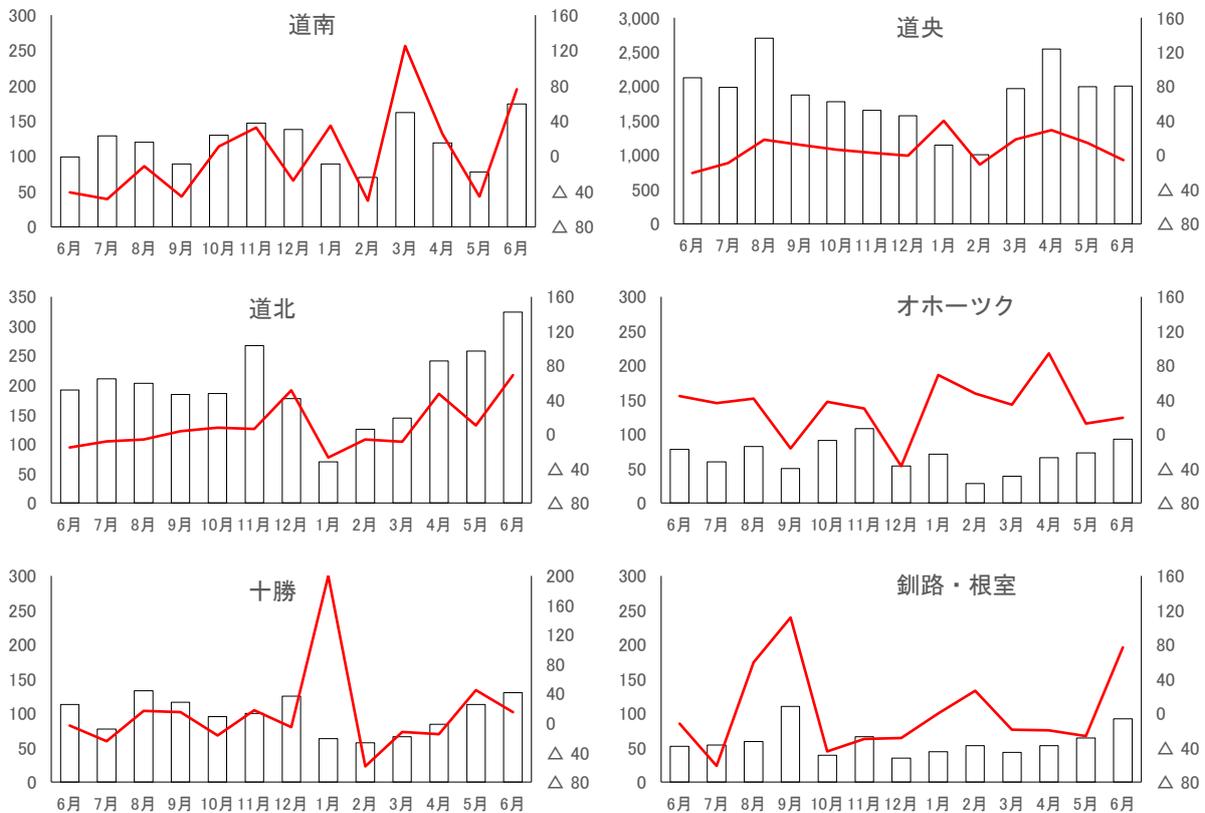
■住宅建設～ 持ち直しの兆しがみられる

新設住宅着工戸数（6月）

住宅着工戸数は、3,302戸で前年同月比4.7%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。
 利用関係別にみると、持家は、1,324戸で同15.4%の増加、貸家は、1,498戸で2.2%の減少、分譲住宅は410戸で同10.5%の減少となった。



■各圏域の新設住宅着工戸数（右軸：前年同月比%）

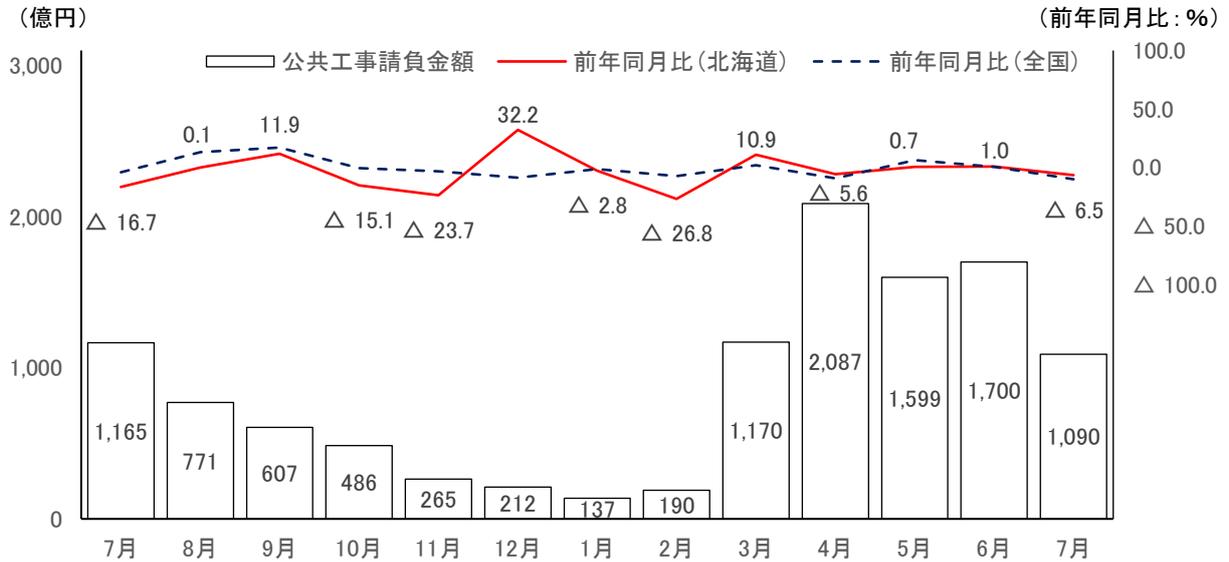


（資料：国土交通省）

公共工事～おおむね横ばいとなっている

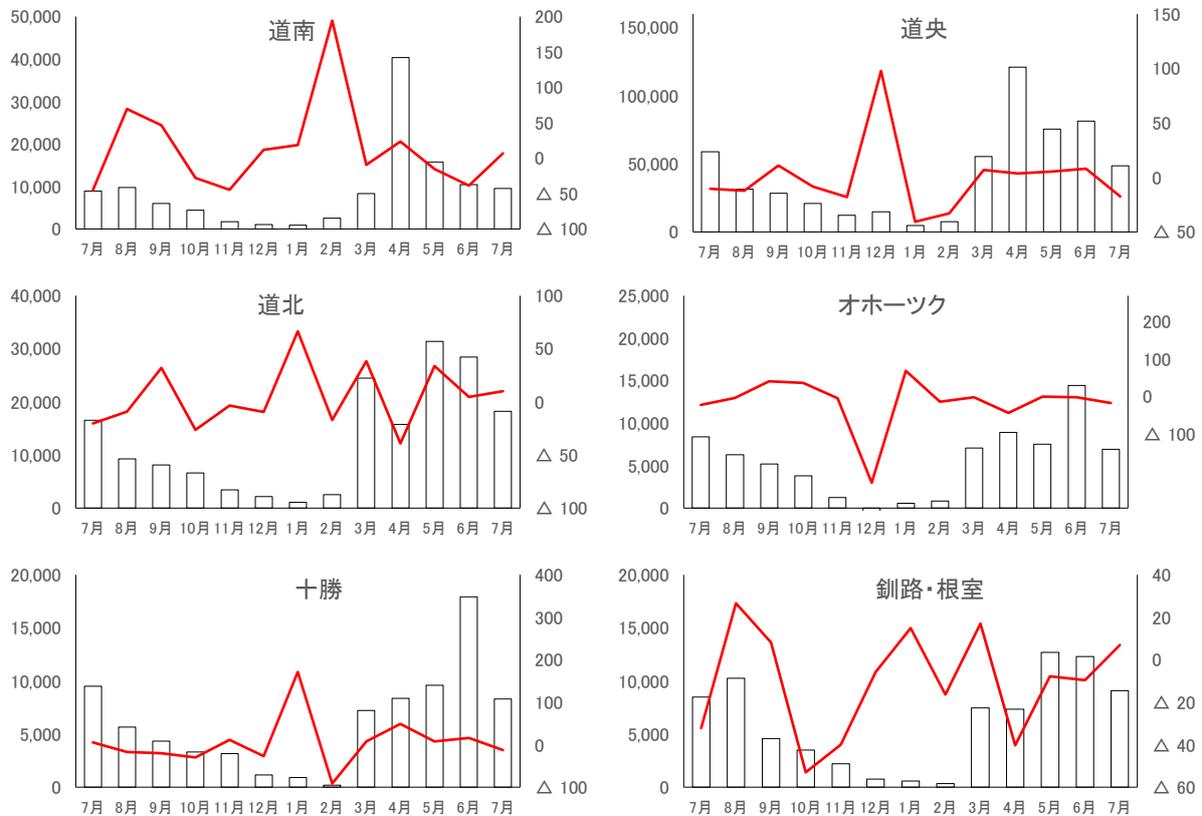
公共工事請負金額（7月）

請負金額は、1,090 億円で前年同月比 6.5%の減少となり、3 か月ぶりに前年を下回った。



(資料:北海道建設業信用保証(株))

各圏域の公共工事請負金額（左軸：百万円、右軸：前年同月比%）

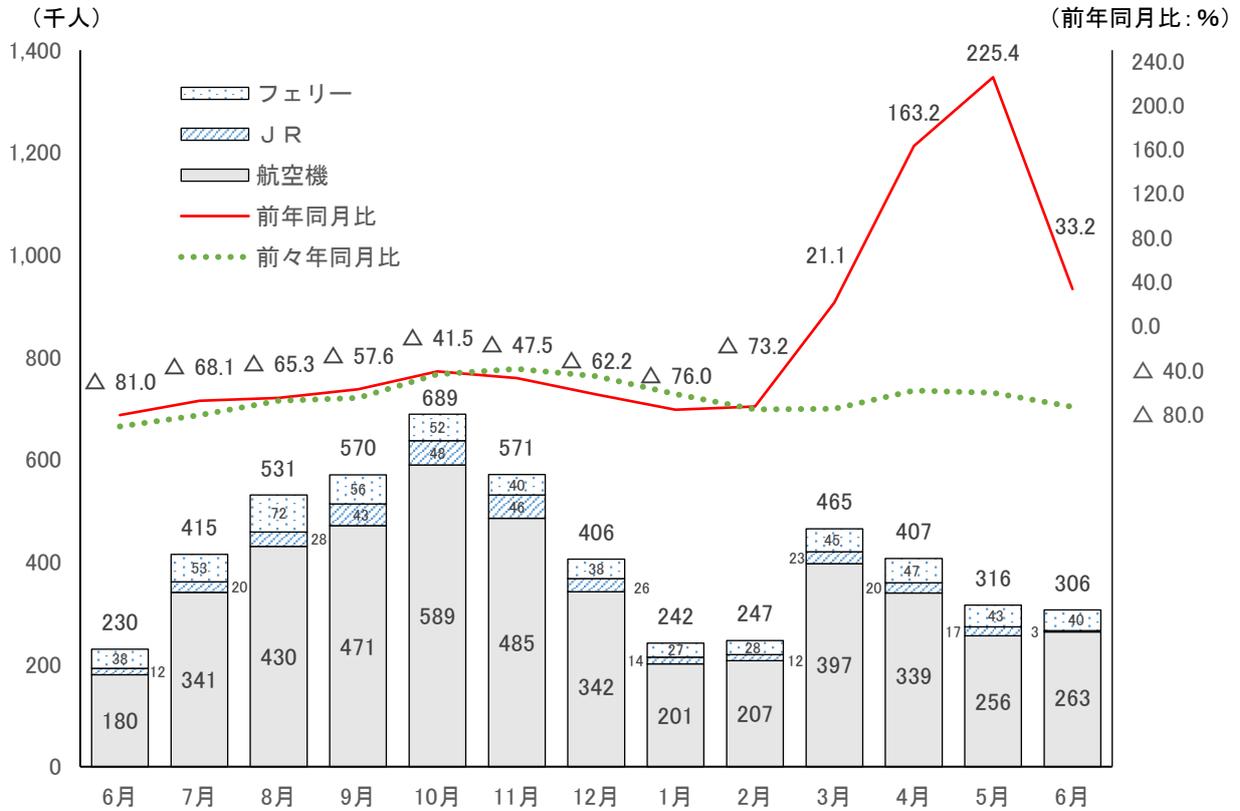


(資料:北海道建設業信用保証(株))

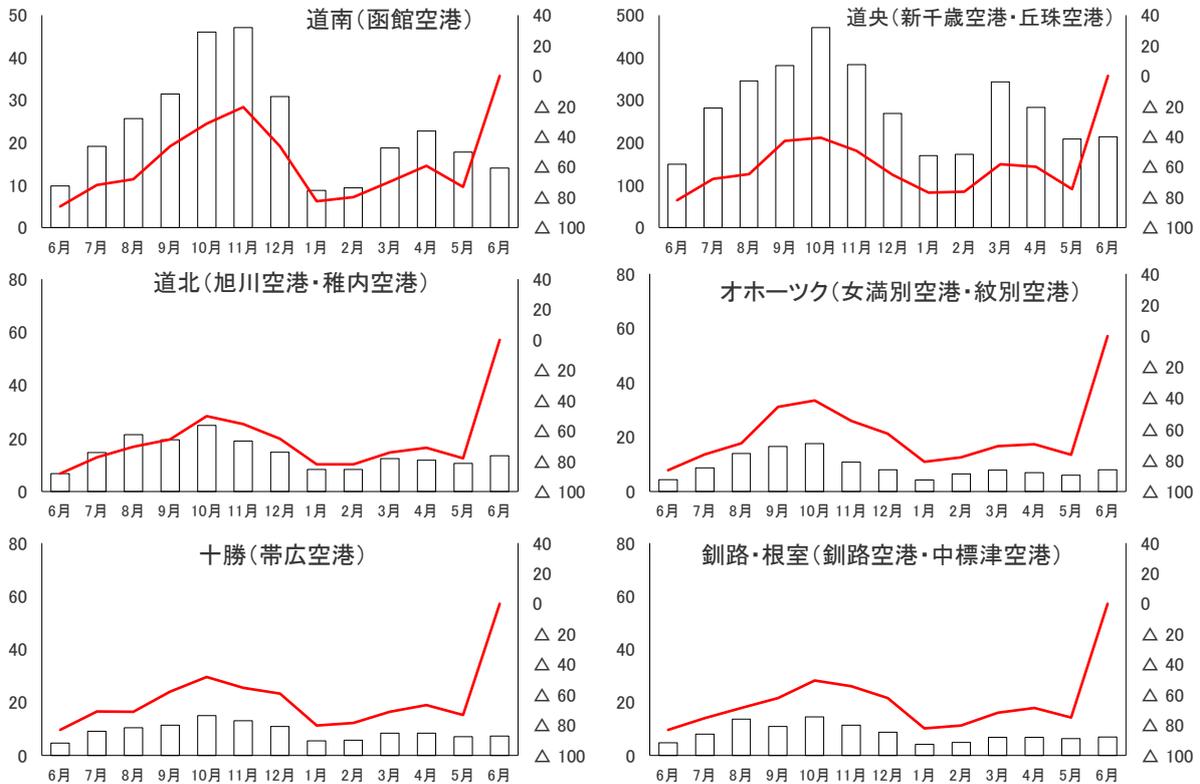
■観光～弱い動きが続いている

来道者数（6月）

来道者数は、30万6千人で前年同月比33.2%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。



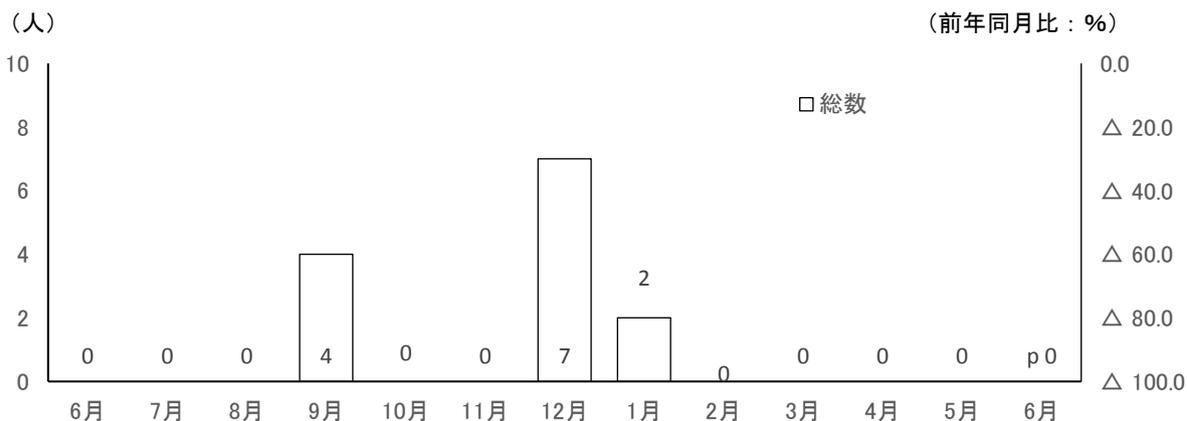
■各圏域の航空機利用による来道者数（左軸：千人、右軸：令和元（2019）年同月比%）



(資料：(公社)北海道観光振興機構)

来道外国人数（6月）

本道に直接入国した外国人は、0人となった。

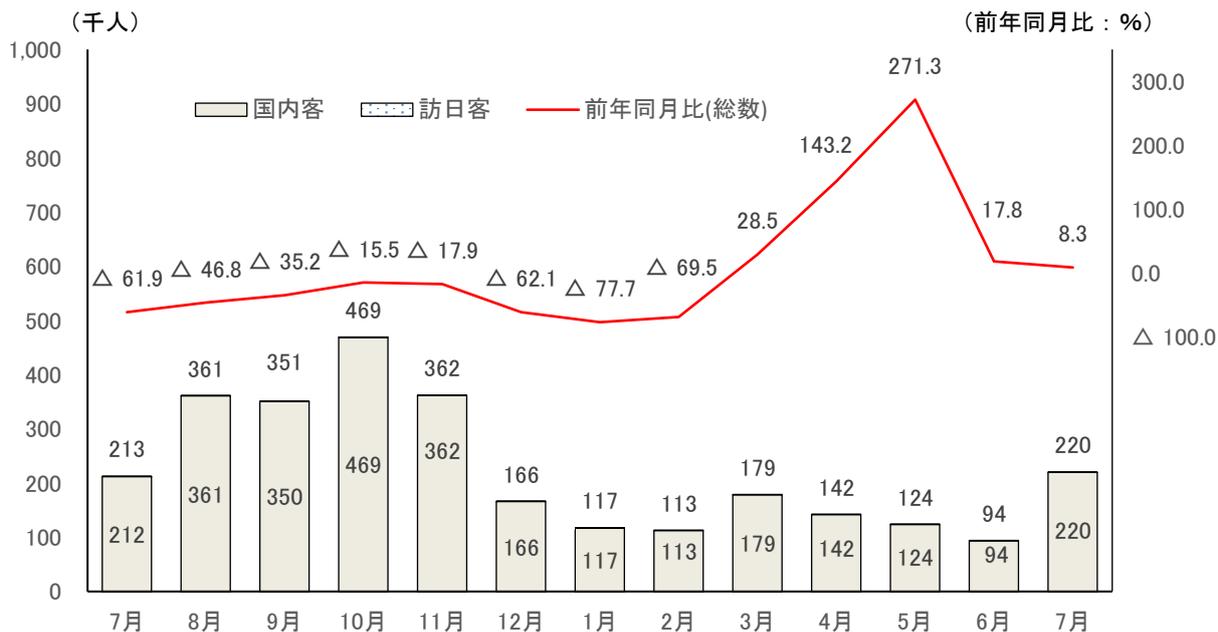


* 「p」は速報値 (資料:法務省入国管理局)

宿泊者数（7月）

日本旅館協会加盟施設の宿泊者数は、219,965人で前年同月比8.3%の増加となり、5か月連続で前年を上回った。

このうち、国内客は219,825人で同8.5%の増加、訪日客は140人で同73.8%の減少となった。



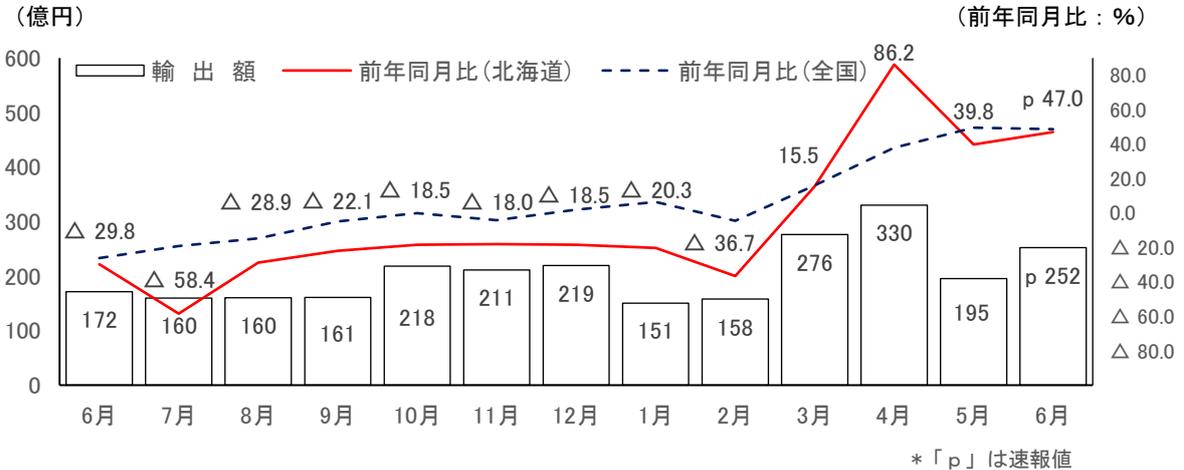
(資料:日本旅館協会北海道支部連合会)

■輸出入～輸出額、輸入額とも前年を上回った

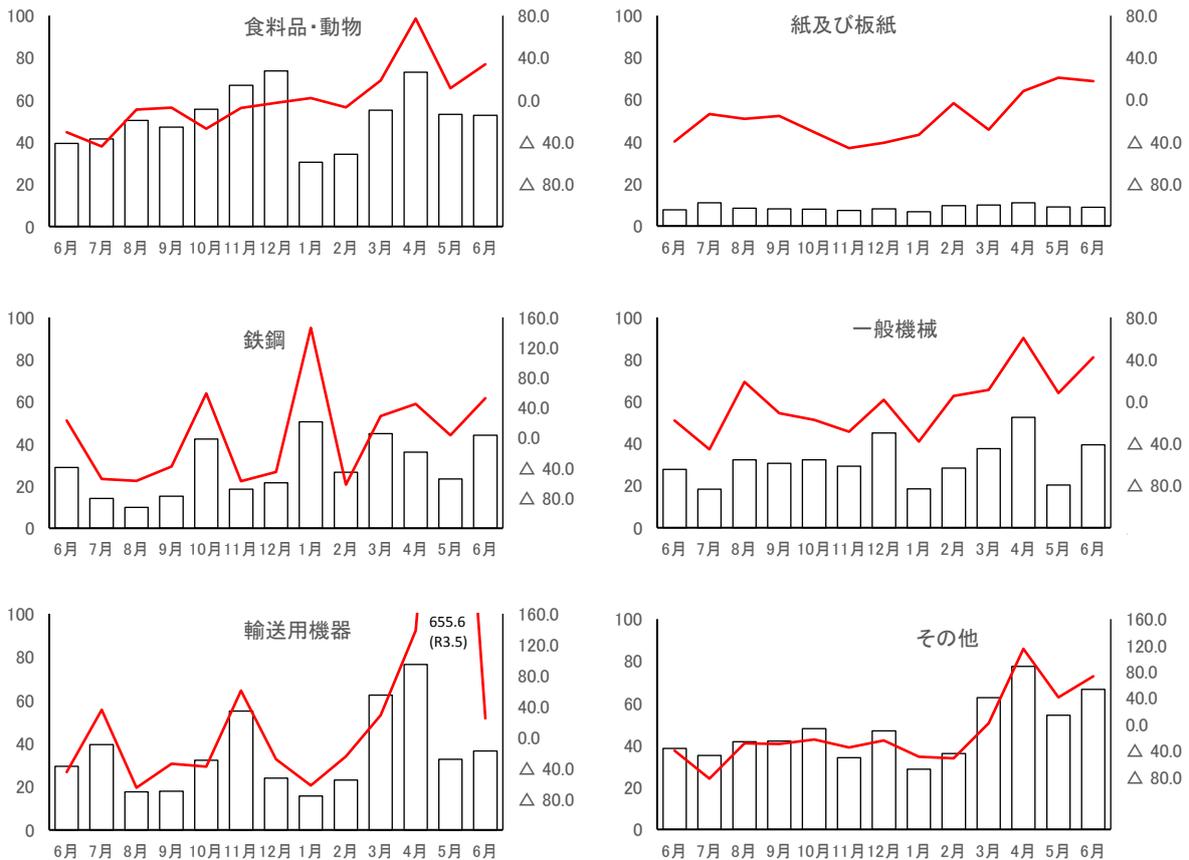
輸出額（6月）

輸出額は、252 億円で前年同月比 47.0%の増加となり、4 か月連続で前年を上回った。

品目別にみると、自動車の部分品、魚介類・同調製品、鉄鋼などが増加し、船舶、自動車、その他の化学製品などが減少した。



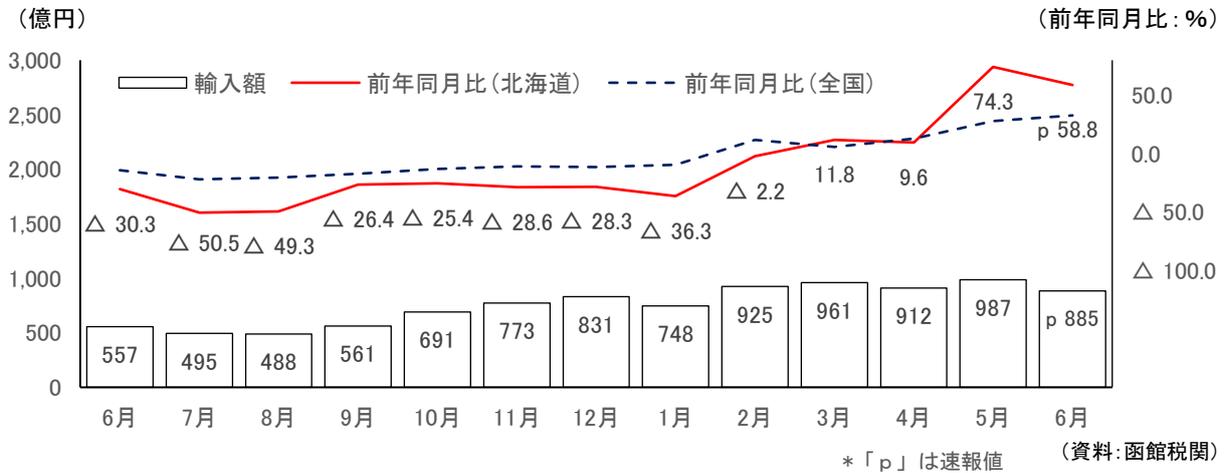
■種類別の輸出額 (右軸：前年同月比%)



(資料：函館税関)

輸入額（6月）

輸入額は、885億円で同58.8%の増加となり、4か月連続で前年を上回った。
品目別にみると、原油・粗油、船舶類、とうもろこしなどが増加したが、天然ガス・製造ガス、再輸入品などが減少した。



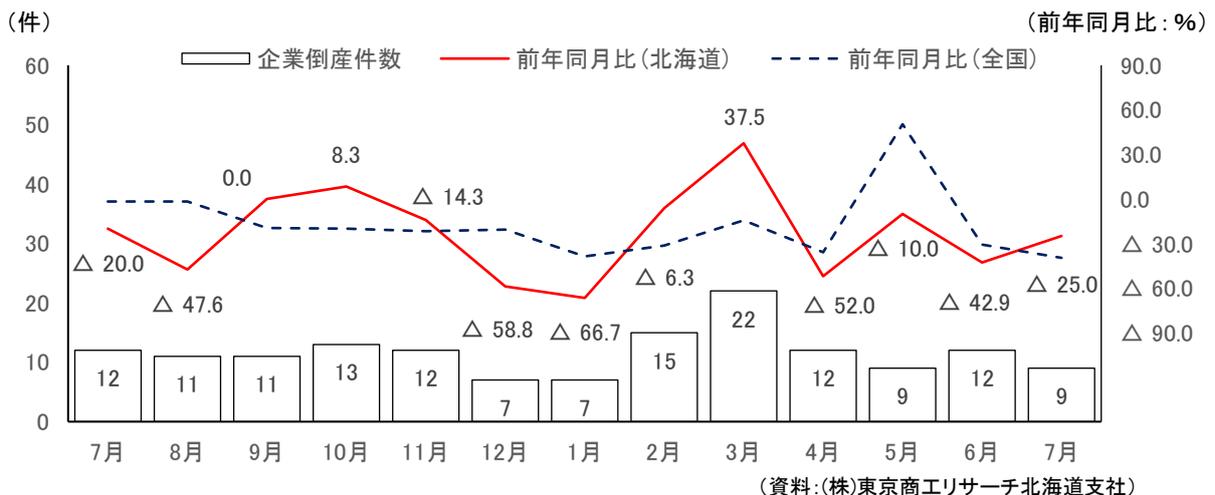
■企業倒産～倒産件数は減少し、負債総額は増加した

倒産件数（7月）

企業倒産件数は9件、前年同月比で3件の減少となった。

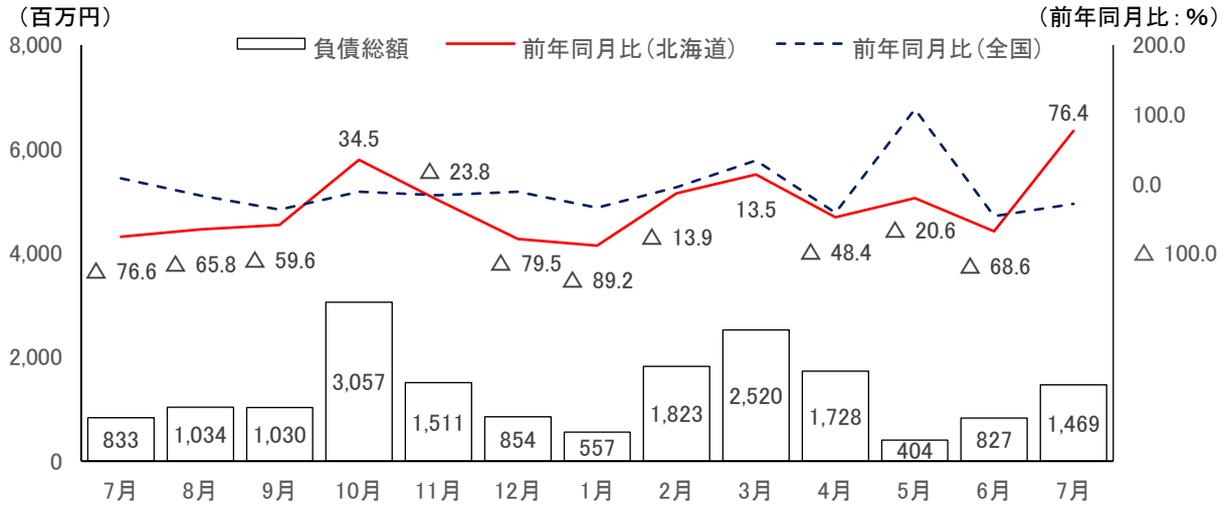
原因別でみると、販売不振が5件(構成比 55.6%)、偶発的原因、放漫経営がそれぞれ2件(構成比 22.2%)であった。

業種別でみると、卸・小売業が6件(構成比 66.6%)、サービス業が2件(構成比 22.2%)、建設業が1件(構成比 11.1%)であった。

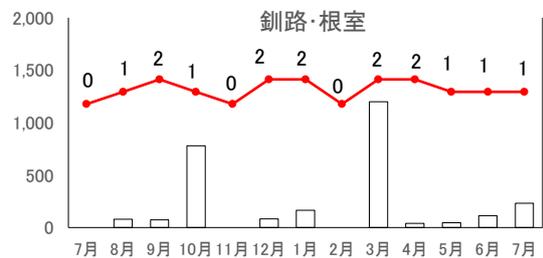
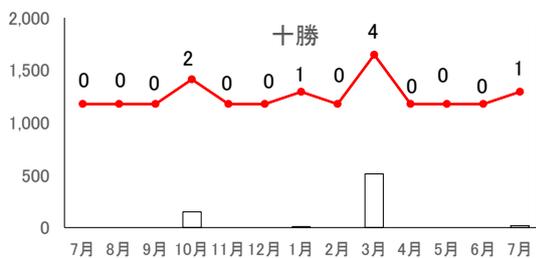
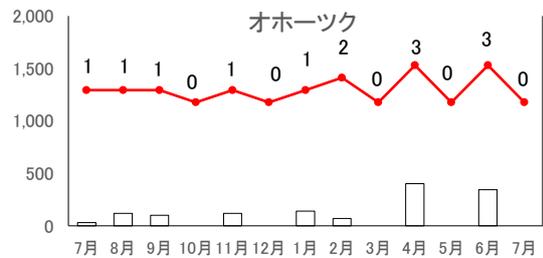
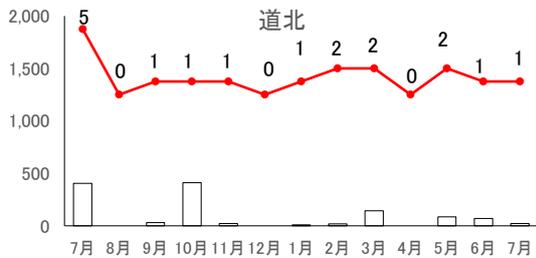
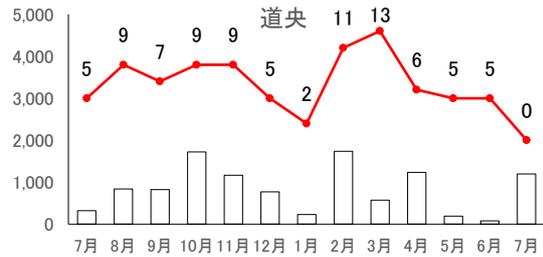
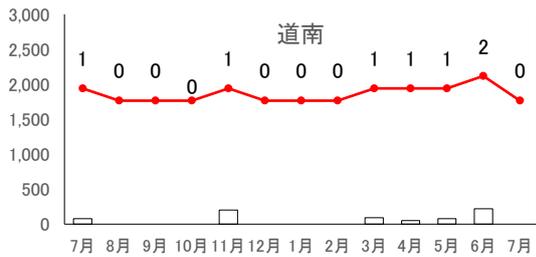


負債総額（7月）

負債総額は、1,469百万円で同76.4%の増加となり、4か月ぶりに前年を上回った。



■各圏域の負債総額と倒産件数（折れ線）



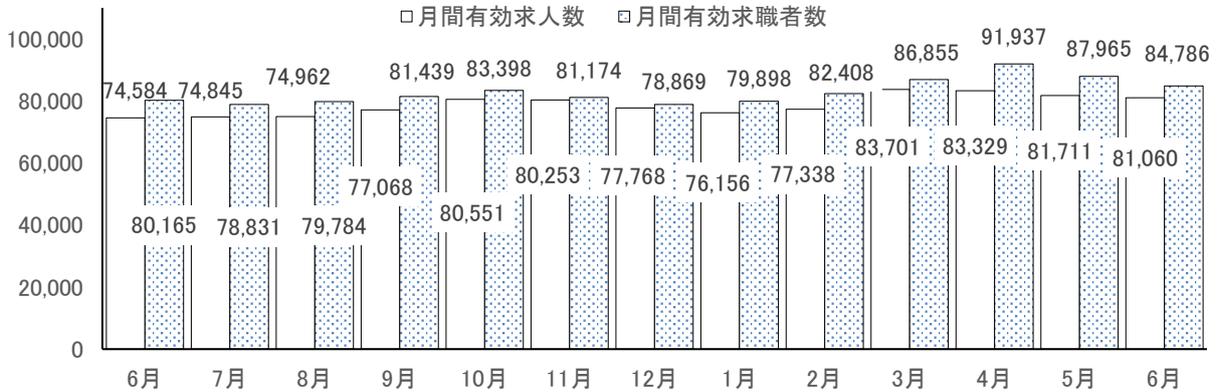
(資料):(株)東京商工リサーチ北海道支社)

■求人・求職～弱い動きが続いている

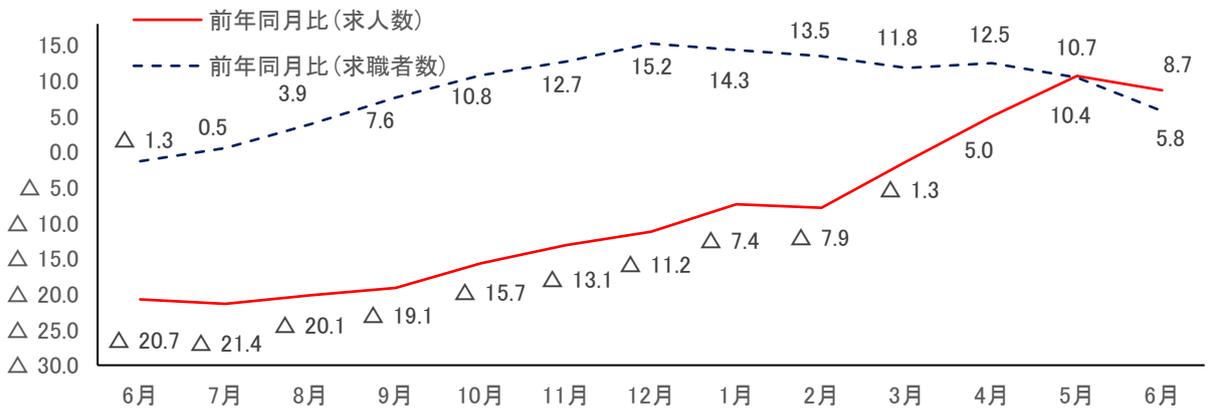
月間有効求人数・求職者数（6月）

月間有効求人数は、8万1,060人で前年同月比8.7%の増加となり、3か月連続で前年を上回った。月間有効求職者数は、8万4,786人で同5.8%の増加となり、12か月連続で前年を上回った。

(人)



(前年同月比：%)



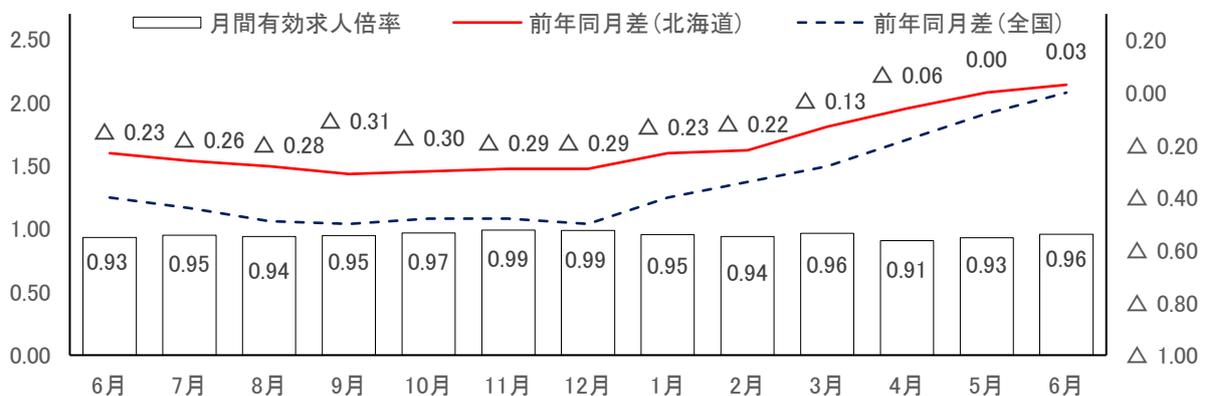
(資料：北海道労働局)

月間有効求人倍率（6月）

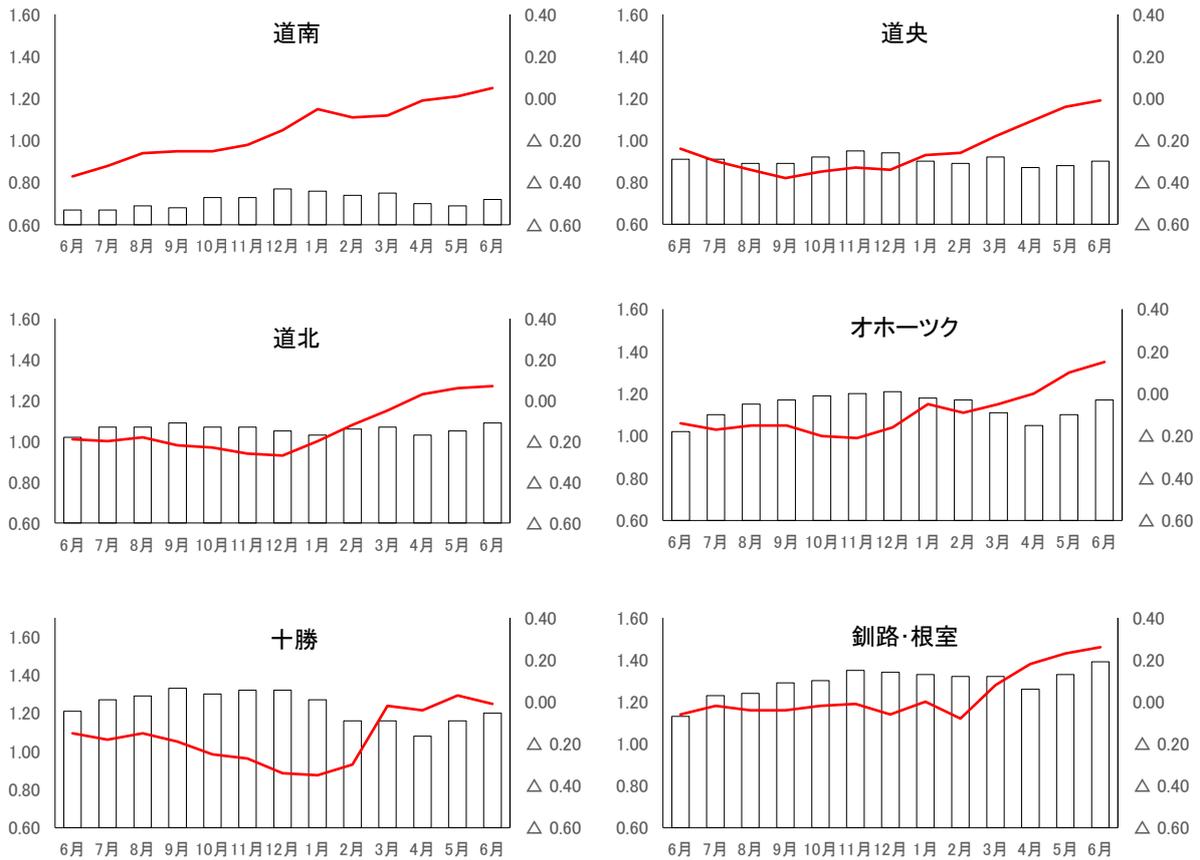
月間有効求人倍率は0.96倍で、前年同月差で0.03ポイントの上昇となり、18か月ぶりに前年を上回った。

(倍)

(前年同月差：ポイント)



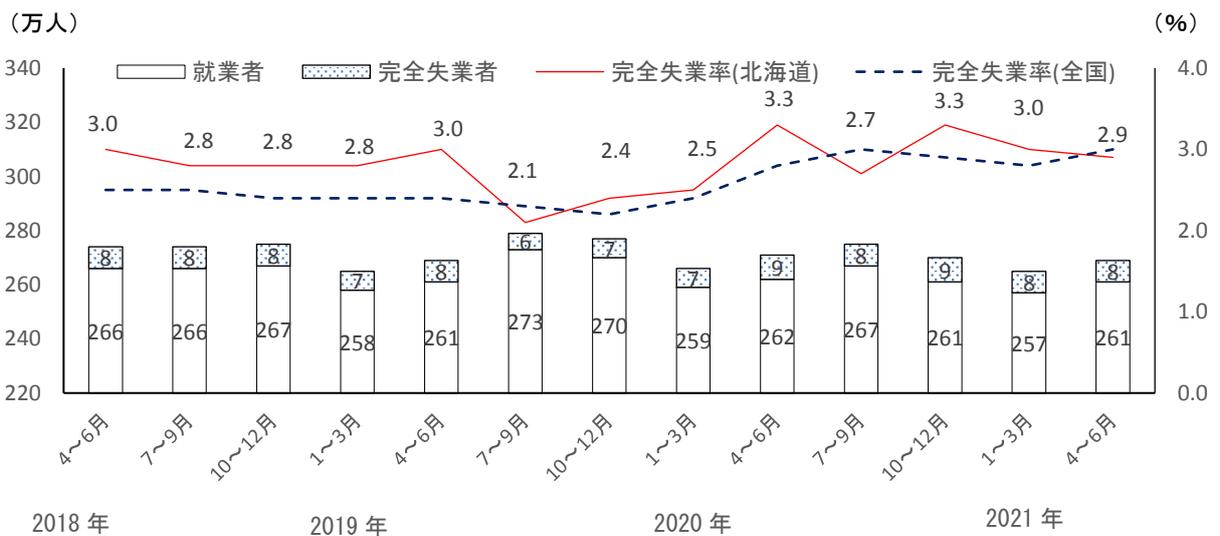
■各圏域の月間有効求人倍率（右軸は前年同月差）



(資料:北海道労働局)

完全失業者数、完全失業率（令和3年4～6月）

完全失業者数は8万人で、前年同期と比べ1万人減少している。
完全失業率は2.9%で、前年同期と比べ0.4ポイント減少となっている。



(資料:総務省)

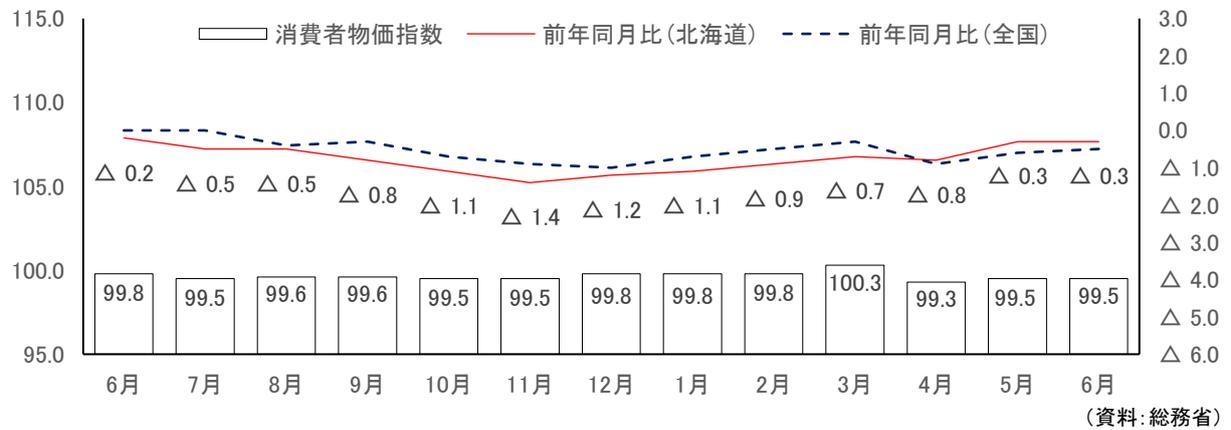
■物価～消費者物価指数は前年を下回った

消費者物価指数（6月）

消費者物価指数(生鮮食品を除く)は、99.5 で前年同月比 0.3%の減少となり、15 か月連続で前年を下回った。

(令和2年(2020年)=100)

(前年同月比:%)

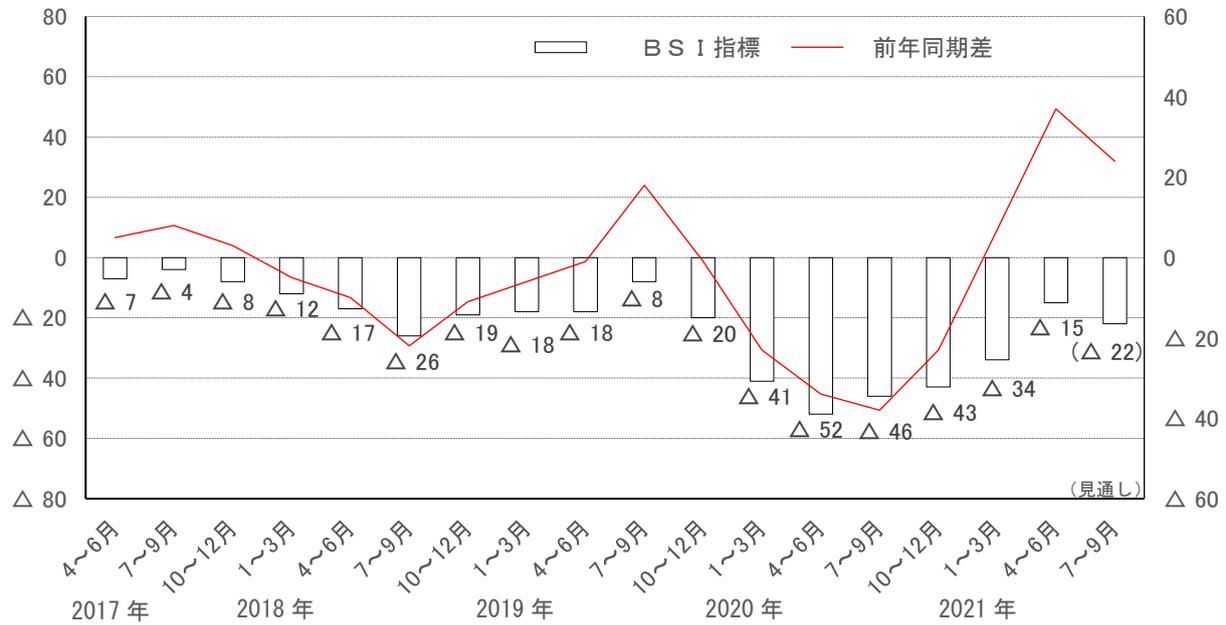


■企業経営者意識調査～前期から上昇している

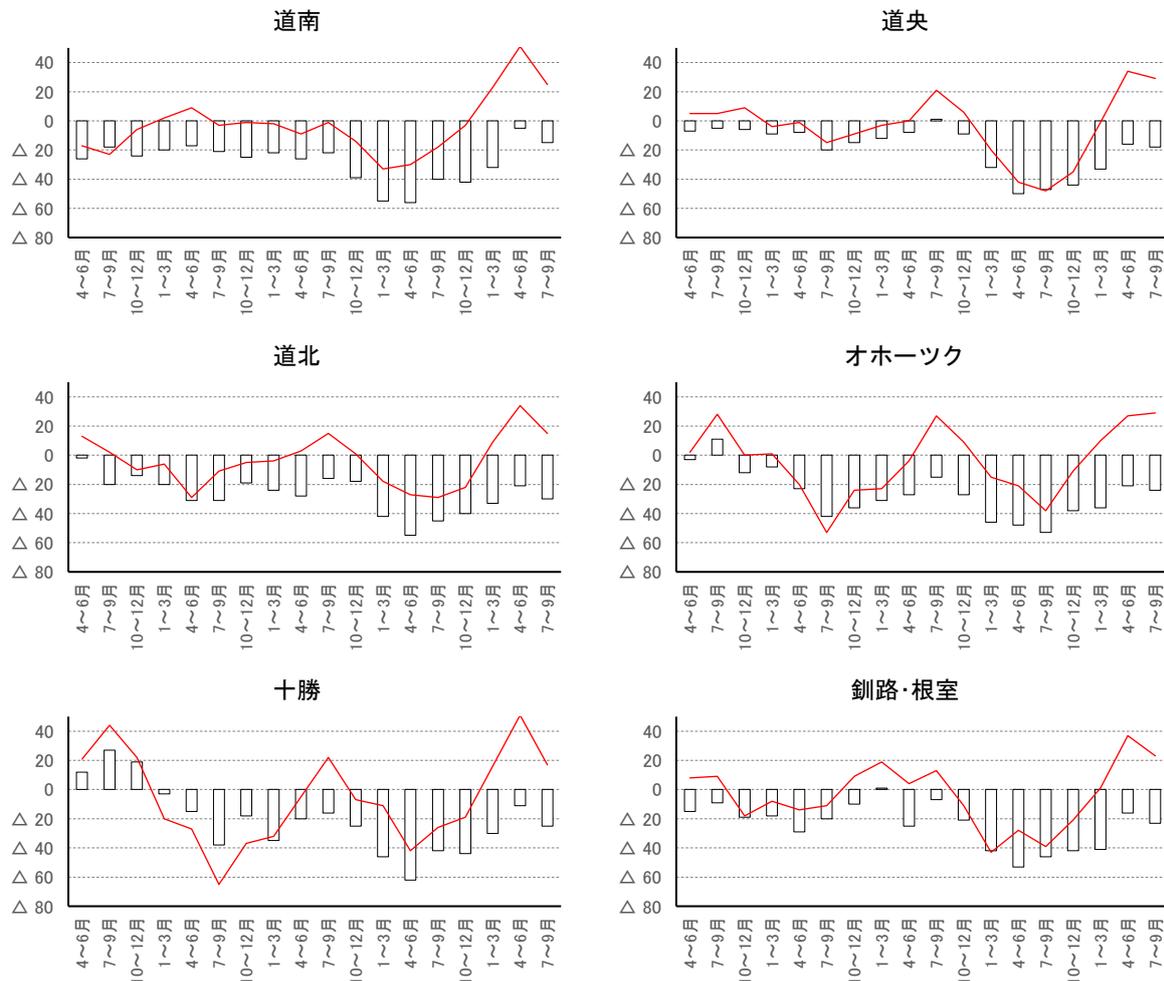
令和3年4～6月期の業況感BSIは△15ポイントで、前期から19ポイント上昇しており、前年同期より37ポイント上昇している。来期見通しは△22ポイントで、今期から7ポイント下落の見通しとなっている。

(BSIポイント)

(前年同期差：ポイント)



■各圏域の業況感BSI (折れ線グラフは前年同期差)



(北海道経済部調べ)

■企業のみなさまから伺いました

◆百貨店（道央地域）

【感染者数の増加で回復が停滞】

緊急事態宣言が解除となった6月後半は回復傾向がみられたものの、7月に入ると、コロナウイルスの感染者数の増加とともにその傾向は停滞気味となり、結果月全体としては、厳しい状況となった。

衣料品の動きは依然として低調であり、6月後半から開始したクリアランスセールについても、7月初めまでの土日においては、前年より若干増加したものの、その後は前年同様に推移した。

【猛暑と交通規制で低調】

8月前半の売上は、7月後半から続いた猛暑とオリンピックの交通規制により、売上・入店客数とも厳しい状況となっており、現在のコロナウイルス感染者の増加傾向をみても、プラス要因は見当たらないため、低調傾向が継続すると思われる。

◆コンビニエンスストア（道央地域）

【オリンピック開催による消費への影響、大きな変化は見られず】

好天が続き、アイスや飲料、ビールなどの商品がけん引し、売上は前年を上回る結果となった。7月後半の連休は主にアウトドアでの行楽による人の動きが回復し、海水浴やキャンプ場に関連する需要が昨年より大幅に増加した。オリンピック開催期間は、それ以前から自宅で過ごす時間と消費が増加していたため、消費に大きな変化は見られなかった。

最近の経済動向

令和3年8月号

編集・発行 北海道経済部経済企画局経済企画課

TEL 011-204-5139

「最近の経済動向」のデータ集は、北海道のホームページでご覧になれます。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kks/ksk/tgs/saikin-doukou.htm>